

福井県衛生環境研究センター研究員活動報告 概要

発表演題名	腸管出血性大腸菌 O157:H7 による散発型集団食中毒の 2 事例
発表学会名	第 36 回北陸公衆衛生学会
発表者名	永田 暁洋、山崎 史子、石畝 史（保健衛生部）
発表日時	平成 20 年 11 月 11 日
発表内容	事例 1：2008 年 4 月に届け出があった O157 患者 2 名は、同一焼肉店（X 店）で生レバー・ホルモン等を喫食していた。最終的には、患者を含む 3 グループ 5 名から O157：H7（VT1+2）が検出された。1 名当たり 2～3 株を分離し、Xba I 処理によるパルスフィールド・ゲル電気泳動（PFGE）を実施したところ、1 バンド違いの 3 パターン（類似度が 93%以上）に分類された。 事例 2：2008 年 7 月に届け出があった O157 患者は、焼肉店（Y 店）で生レバー・ホルモン等を喫食していた。最終的には、上記患者を含む届け出患者 3 名、その同行者 2 名、Y 店の従事者 2 名とその家族 1 名、計 6 名（いずれも Y 店の肉類を喫食）から O157：H7（VT1+2）が検出された。また、Y 店と肉類の仕入れ先が共通の V 店および W 店で牛さし・ホルモン等を喫食した 2 名も同時期に O157 患者として届け出された。一方で、Y 店との関連が不明の 1 名も同時期に O157 患者として届け出された。計 7 グループ 11 名由来株の PFGE パターンは全て同一であった。